

森山 久五郎（もりやま・きゅうごろう）

1、プロフィール

歌人。鱒ヶ沢短歌会で「和船」を創刊、主宰者。「橄欖」「あすなろ」「国土」のあと、「潮汐」に入会して鹿児島寿蔵に師事。東奥歌壇の選者となり、県歌壇を指導した。

<生没>

1895(明治 28)年5月 30 日～1986(昭和 61)年1月 10 日

<代表作>

歌集『冬川』『天のはて地のはて』『櫻の枝』

遺歌集『款冬花』

<青森との関わり>

南津軽郡山形村(現黒石市)に生まれる。深浦町、鱒ヶ沢町、青森市で教鞭を執り作歌活動を行う。青森市議会議員を三期務める。

2、作家解説

森山久五郎(旧姓、生田)は、明治 28 年5月 30 日南津軽郡山形村(現黒石市)大字温湯字鶴泉 50 番地に生まれた。44 年4月、青森県師範学校に進学した年、校友会誌編集委員をつとめ、孤蘭の雅号で短歌を投稿した。孤蘭の雅号については、学校長萱場今朝治の示唆があった。

大正 5 年4月、西津軽郡深浦尋常小学校訓導として赴任。来県中の若山牧水を囲み、五所川原の林証次郎宅で開催された短歌大会に出席、刺激を受ける。7 年8月、牧水の「創作」、太田水穂の「潮音」に入る。8 年7月、「黎明」が発刊されることになり、生田孤蘭は創刊号に同人として参加する。9 年4月、鱒ヶ沢町舞戸の森山のぶと結婚し改姓、同家の後見人となる。大沢清三、桜井夢村、長谷川深ら歌人との交遊が始まる。教え子から神勝之助、秋田立郎、工藤達郎、尾崎竹四郎、佐々木栄三、三ツ谷平治らの人材が出る。昭和 6 年、鱒ヶ沢短歌会で「和

船」を創刊、主宰者となる。7年9月吉植庄亮の「橄欖」に入会、10月東奥歌壇の選者となる。

9年3月青森市に転住、4月から新町小学校に勤務した。横山武夫の「アスナロ」、藤沢古実の「国土」に入会。27年、野脇小学校長で退職、10月青森市教育委員。28年、東奥日報青森東部専売所を経営。29年、青森地方裁判所調停委員。33年、国際ロータリークラブ会員。34年、青森市議会議員に当選（以後三期にわたる）。多忙な公務生活に専念、多年短歌活動から離れていたが、37年に到り、三ツ谷平治の奨めで鹿児島寿蔵の「潮汐」に入会、作歌への情熱が再燃した。38年3月、第一歌集『冬川』発刊。48年9月、第二歌集『天のはて地のはて』発刊。51年6月、第一回青森県歌人功労賞受賞。55年11月、勲五等瑞宝章の叙勲を受ける。57年12月、第三歌集『櫨の枝』発刊、「未来への飽くなき欲求」として横山武夫書評。61年1月10日逝去。享年90。

62年1月10日、一周忌に遺歌集『款冬花』が刊行された。「あとがき」は長男森山侃。

遺詠一首。 楠の木陰に憩ひ泉水の清きよどみに老の影うつす

3、資料紹介

○歌集『櫨の枝』

図書

1973(昭和48)年～1982(昭和57)年

180 mm × 125 mm

第三歌集。昭和48年から57年までの短歌456首を収める。「若き日に養家の屋敷の一隅を占めていた大櫨の枝を思い出し、大樹の静けさにふれる安らぎに親しさをおぼえて」詠んだ短歌が中心であり「夕茜うすく流るる冬空に櫨の枝の参差(しんし)静もる」からとって歌集名とした。